

はじめに

デュオドーパ治療は、従来の飲み薬では十分な治療が難しくなったパーキンソン病患者さんのために開発された治療法です。デュオドーパは、カセットに入ったゲル状の薬剤(すでに飲み薬として広く使われているレボドパ・カルビドバ合剤)を、専用のポンプとチューブを使用し、胃ろうを介して、患者さんの小腸に直接、持続的に送り届けます。このことにより、ドパミンの血中濃度を一定に保つことが可能となり、パーキンソン病による症状やウェアリングオフなどの運動合併症の改善が期待できます。

一方で、デュオドーパ治療を安全かつ効果的に行うためには、専用のポンプやチューブの使用・管理、胃ろうの管理など、従来の治療にはなかった作業が必要になります。

本冊子は、デュオドーパ治療を導入される患者さんやご家族、介護者の方に、より理解を深めていただくことを目的に作成しました。導入にあたっての疑問や不安が改善されること、そして、より良い日常生活を送られるお手伝いができれば幸いです。

独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院 院長 武田 篤